

## 経済財政政策部局の動き：経済の動き

# 中国輸出の高度化と米中貿易摩擦について

～世界経済の潮流2018Ⅱについて～

政策統括官(経済財政分析担当)付  
参事官(海外担当)付

松末 吉平

## はじめに

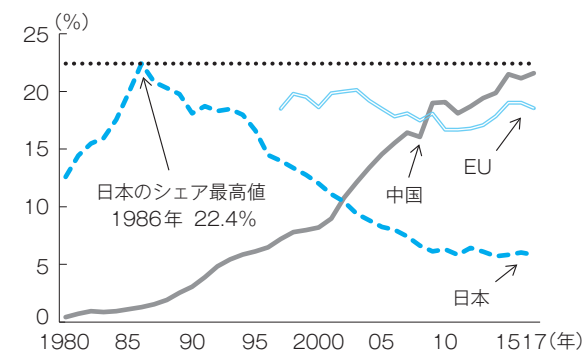
2018年は通商問題の動向が世界経済のリスクとして強く意識される年となった。特に世界のGDPの第1位と第2位の割合を占めるアメリカと中国間で、お互いが次々と貿易制限措置を実施する状況に至り、その世界経済への影響が懸念されている。こうした状況を踏まえ、3月12日に公表した「世界経済の潮流2018年Ⅱ」(以下「潮流」という。)では、米中貿易摩擦が生じた背景や経緯、その経済への影響について考察し、さらに、米中両国間の貿易構造の変化をグローバル・バリュー・チェーン(GVC)の観点から分析を行った。本稿ではその一部を紹介する。

## 米中貿易摩擦の背景と経緯

世界の名目GDPに占める中国の割合は、急速に拡大している。中国が世界貿易機構(WTO)に加盟した01年には中国の世界のGDPに占めるシェアは4%に過ぎなかったが、17年には15%にまで拡大している。米中両国の世界のGDPに占める割合は約4割に達し、米中間の貿易摩擦が世界経済にとっての最大のリスクとされる所以となっている。

また、アメリカの輸入に占める中国のシェアをみる

図1 アメリカの輸入に占める国・地域別シェア



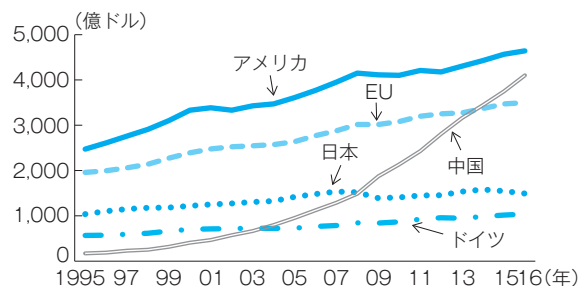
(備考) アメリカ商務省より作成。

と、90年時点では3.1%に過ぎなかったが、17年には21.6%に達し、EUを超える水準にまで拡大している(図1)。さらにアメリカの国別の財貿易収支においても、中国の位置付けが急速に拡大している。アメリカのトランプ大統領は対中国の財貿易収支の赤字が大きいことを問題視している。

一方で、中国政府は経済の量的拡大のみならず、産業の高付加価値化も図っている。中国政府はこれまでの労働集約型の産業が中心であったところから、より高度な産業を育成することを国家の戦略目標として打ち出し、15年に「中国製造2025」を策定した。また、研究開発への支出を急速に増加させている。(図2)

中国がこうした政策を進める中、アメリカ政府は、前述の財貿易赤字に加え、中国による技術移転の強要や知的財産権の侵害を問題視し、18年7月に開始された追加関税措置をはじめとする中国に対する貿易制限措置を実施している。

図2 R&Dへの支出額



(備考) OECD.Statより作成。

## 中国輸出入構造の変化

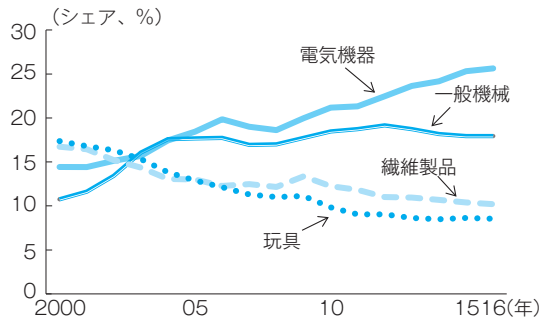
中国の貿易量は01年のWTO加盟後急速に拡大し、09年には輸出金額で世界1位となり、輸入金額では世界2位となっている。

この間の中国の輸出構造の変化を品目別にみると、それまでの輸出品目の中心であった繊維製品や玩具が減少し、一般機械、電気機器が大きく伸び、労働集約型から高付加価値品目へ変化している。生産段階別にみても、消費財が減少し、中間財が伸びていることから、GVCの下流から上流へと変化しているとみられる(図3)。

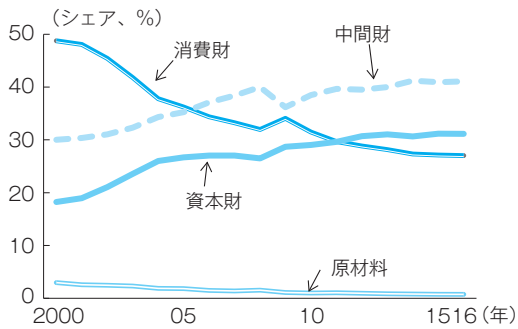
## 中国輸出の高付加価値化

通常の貿易統計では、輸入された中間財・サービスも含めて当該国の輸出として計上されるため、世界全体でみると中間財・サービスが重複して計上される二重計上が存在する。付加価値貿易統計は、こうした二

図3 中国の輸出の品目別シェア（上）、生産段階シェア（下）



（備考）経済産業研究所「RIETI-TID 2016」より作成。

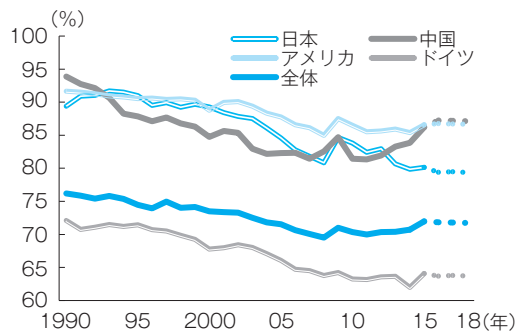


（備考）経済産業研究所「RIETI-TID 2016」より作成。

重計上を取り除き、各国で創出された付加価値のみを捉えたものである。潮流では、付加価値貿易統計を用いてGVCにおける中国の位置付けの変化を分析した。

GVCの進展は、付加価値輸出（VAX）の総輸出に対する割合 [VAX比率 = (VAX) ÷ (総輸出)] が低下することによってみる事ができる<sup>1</sup>。国別のVAX比率で比較すると、中国のVAX比率は、世界金融危機までは他の先進国を上回るスピードで低下傾向にあったが、12年を境に顕著に上昇している（図4）。輸出に占める自国付加価値比率の高まりは、輸出における海外からの中間財輸入への依存度が低下している可能性を示唆しており、中間財について、徐々に輸入品から

図4 国別VAX比率



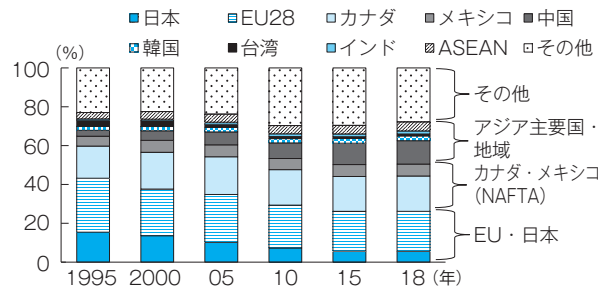
（備考）1. UNCTAD-Eora GVC Database より作成。  
2. 2016年以降の値は、UNCTADのナウキャストによる推計値。

自国生産のものへと切り替えつつあると考えられる。

## GVCを通じた貿易摩擦の波及可能性

アメリカの輸出（18年）のうち、約87%は自国の付加価値、約13%は海外からの付加価値で構成されている。海外からの付加価値の国・地域別シェアをみると、95年以降、先進国である日本、EU、カナダのシェアは低下する一方、新興国の占める割合は高まっている。特に中国のシェアは、95年には3%に過ぎなかったが、18年には12%と約4倍まで急速に拡大している。このことは、中国からの輸入がアメリカの輸出産業を支える側面が強まっていることを示している。また、アメリカの輸出には幅広い国・地域の付加価値が含まれており、米中間の貿易摩擦がGVCを通じてこれらの国・地域に波及する可能性がある（図5）。

図5 アメリカの輸出に占める海外からの付加価値の国・地域別シェア



（備考）1. UNCTAD-Eora GVC Database より作成。  
2. 2018年の値は、UNCTADのナウキャストによる推計値。

## おわりに

中国のGVCにおける位置付けは着実に先進国の位置付けに近づいている。すなわち、高付加価値の財を輸入に頼るのではなく、自国で生産する方向にシフトしている。米中間で見ると、アメリカの輸出産業が中国からの輸入財への依存度を高めており、アメリカの中国からの輸入に対する関税率の引き上げのアメリカの輸出産業への影響が年々大きくなっていると考えられる。また、米中の輸出には幅広い先進国及び新興国等の付加価値も含まれており、米中貿易摩擦はGVCを通じて各国・地域に波及し、その影響がより大きくなる可能性がある点にも留意が必要である。

松末 吉平（まつすえ きっぺい）

1 分母の総輸出には前述の二重計上分が含まれ、各国の中間財の輸出が増加するほど分子の付加価値輸出との差が拡大し、比率が低下する。